

ふれあいを大切にした

生涯安心して暮らすことのできる

まちをつくろう

— 牧之原市地域福祉活動計画 —

平成21年度(2009)～平成25年度(2013)

ダイジェスト版

平成21年3月

社会福祉法人 牧之原市社会福祉協議会

地域福祉活動計画の目的と内容

地域福祉活動計画は、社会福祉協議会が呼びかけて、住民、地域において社会福祉活動を行う人、福祉サービス等を経営する人がお互いに協力して地域福祉を推進するための活動計画です。

その内容は、地域の福祉課題の解決をめざして、住民や民間団体等が行う様々な解決活動を体系的に年度ごとにまとめたものです。

計画の構成

この計画は「基本理念」、「基本目標」、「具体的施策」、「実施計画」によって構成する。

「基本理念」は、牧之原市社協が目指す将来の牧之原市の姿を目標として表したものです。

「基本目標」は、基本理念の具体的な行動方針を示したものです。

「具体的施策」は、実際に行う具体的施策を示したものです。

「実施計画」は、実際に行う事業と実施年度を示したものです。

他計画との整合性

平成20年度に牧之原市では、「地域福祉計画」を策定しています。社協では、地域福祉を目指す方向は市と同じであるため協働して両計画を策定しています。「地域福祉計画」は今後の地域福祉に関する取り組みの方向を示す概念的な計画で、「地域福祉活動計画」は地域福祉を推進するための具体的計画です。

策定の方法

住民の皆様の声を反映するため、平成19年度は約1,000人にアンケート調査を実施しました。平成20年度は、9月～10月に市内12地区で地域座談会をワークショップ形式で開催し、371人が参加しました。また、要援護者、ボランティア等の意識調査を実施し、たくさんの皆様からご意見をいただきました。

その声をもとに、住民の皆様の代表である策定委員会（17人）と当事者や専門機関代表者等で組織する作業部会（44人）で検討し、平成21年度から平成25年度までの5ヵ年計画を策定しました。

基本理念と基本目標

基本理念

ふれあいを大切にしたい生涯安心して暮らすことのできるまちをつくろう

基本目標1

安心して暮らせる未来のまちをつくろう

■相談事業、情報提供、人権対策、福祉サービス、介護サービス、災害時援護活動、子育て支援の充実

アンケート調査等で住民が不安に思っていることは「健康」、「介護」、「災害」でした。困った時にいつでも気軽に相談できる場所を目指します。また、高齢者や障がいのある方が住み慣れた家や地域で可能な限り住みたいという気持ちを実現できるように、情報の発信や自立を支援する制度の充実に努めます。また、災害時に援護を必要とする要援護者のための援護活動を充実します。

- 相談窓口の充実
- 介護予防啓発事業
- ふくしだより発行
- ホームページの充実
- 日常生活自立支援事業（権利擁護事業）
- 福祉車両貸出事業
- 通園費補助事業
- ふれあい食事会
- 生活福祉資金貸付事業
- 福祉資金貸付事業
- 日常介護用具貸与事業
- 福祉用具リサイクル事業
- 施設入浴サービス事業
- 移動支援事業
- 介護者の集い
- 介護予防教室

- 災害時援護活動のための関係機関とのネットワーク活動
- 災害後の支援体制の確立
- 子育て支援窓口の充実
- 子育て支援冊子の作成
- のびのび子育て井戸端会議

基本目標2

共に助け合う地域をつくろう

■地域福祉活動の支援、ボランティア活動等市民活動の推進

地域には、ひとりで暮らしている高齢者や子育てに悩む親、障がいがあっても一生懸命生活をしている人などいろいろな人たちが住んでいます。本人が努力しても足りないところを公的制度や社協などの福祉制度でサポートしていますが、まだまだ足りないのが現状です。そのため、身近に住んでいる人たちの力が必要になります。

ふれあい・いきいきサロンや見守りネットワーク、地域福祉を進める地区社協の組織など、地域住民の皆様の理解を得て、共に助け合う地域づくりを進めたいと考えています。

- 地区社会福祉協議会（地区社協）
- 地域福祉事業補助金
- 地区代表者連絡会
- 三世代交流事業
- 地域世代間交流事業
- 障がい児（者）との交流
- ふれあい・いきいきサロン事業
- 多様なサロン事業
- 見守りネットワーク支援事業
- 高齢者の人材活用（伝承）
- ちょこっとボラの推進

基本目標3

地域福祉を支える担い手をつくろう

■ボランティア拠点機能の充実と仕組みづくり、ボランティアの育成と人材の確保、災害ボラ

ンティアの育成、福祉教育の充実

地域福祉を進めるためには、たくさんの人たちに参加協力してもらうことが必要です。ボランティア活動等に参加してもらうために、ボランティア活動に関する情報の充実を図るとともに、身近な所で気軽にできるボランティア活動やリーダーの育成に努めます。

また、将来の牧之原市を担う子どもたちが、福祉を知り、調べ、考え、体験する中で高齢者や障がい児（者）に対する理解を深め、やさしさや思いやりの心を育む環境を作りたいと思います。

- ボランティアニーズ調査
- ボランティア情報の発信
- ボランティア掲示板の設置
- ボランティアコーディネート体制の充実
- 有償ボランティア制度等の検討
- 各種ボランティア講座の開講
- サロン協力員の養成
- サマーショートボランティア
- リーダー養成講座の開催
- ボランティア人材バンク
- 災害ボランティアコーディネーターの養成
- 福祉教育学校・施設連絡会
- 学校での福祉体験学習への支援
- 福祉体験講座の実施
- 福祉教育の充実
- 障がい者を理解するための講座
- 福祉教育ハンドブックの作成
- みんなの描く福祉作品コンクール

基本目標4

ふくしのまちの基盤をつくろう

■計画を実施するための財源確保、社会福祉協議会の組織の充実、人材の育成と確保、ネットワークの形成と充実

前述の基本目標を達成するために、事業を実施するための財源を確保し、社協の組織の充実や人材の育成と確保を図り、さらに他組織とのネットワークによる対応を図ります。

- 財源確保
- 組織の充実
- 人材の育成と確保
- ネットワークの形成と充実

【人口推移と少子高齢化の状況】

年	15歳未満		15歳～64歳		65歳以上		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
H 7	9,516人	18.3%	32,873人	63.1%	9,678人	18.6%	52,067人	100.0%
H12	8,419人	16.3%	32,500人	62.9%	10,743人	20.8%	51,662人	100.0%
H17	7,155人	14.1%	31,889人	63.0%	11,601人	22.9%	50,645人	100.0%
H20	6,929人	13.3%	33,249人	63.7%	11,984人	23.0%	52,162人	100.0%

※平成7年・12年・17年は国税調査。平成20年は3月31日現在の住民基本台帳＋外国人登録者数（2,047人）

【援護を必要としている人の状況】

高 齢 者	ひとりぐらし世帯	789人	介護保険要介護認定者数1,788人	
	子らとの同居世帯	9,274人	要支援1（151人）、要支援2（297人）	
	夫婦のみの世帯者	1,454人	要介護1（340人）、要介護2（257人）	
	その他の高齢者のみの世帯	194人	要介護3（243人）、要介護4（294人）	
	特定高齢者	774人	要介護5（206人） サービス受給者数1,527人	
	特別養護老人ホーム入所者	245人	保健福祉手帳保持者（精神障害）	200人
	養護老人ホーム入所者	32人	母子世帯（児童扶養手当該当者）	272人
身体障害者手帳保持者	1,832人	生活保護世帯		47世帯
療育手帳保持者（知的障害）	324人			54人

※データの数値は、平成20年4月1日現在の数値を記載。特定高齢者のデータは、平成20年度1年間の見込み人数を記載。

【住民の皆さんからのご意見】

(1)市民アンケート結果(994人)

近所づきあいに84%が満足している。地域で助け合えることは、「見守り」「声かけ」「緊急時の救助活動」。ボランティア活動は必要だと思うが、参加している人は15%。福祉教育の充実や気軽にできるボランティア活動、災害時の救助活動には日頃からの近所づきあいが必要。

(2)地域座談会結果(12地区371人)

36グループのワークショップで意見が出されました。向こう三軒両隣のご近所づきあいを望む。普段から顔を合わせたり話をする必要がある。仕事・車通勤・アパートの増加などでそれができなくなっている傾向もある。「高齢者の見守り」「声かけ」「サロンへの参加」「日常的なことの助け合い」「災害時の助け合い」などをご近所で行うことを望む。ボランティア活動は、全員が必要であるというご意見。ボランティア活動の課題は、情報不足、敷居が高いこと、気軽にやりたいが責任が生ずる、リーダー不足。

(3)当事者の声

①ひとり暮らし老人(67人)

生活する上での悩みや不安は「健康」「介護」「災害時のこと」。地域の人に手助けしてほしいことは、「声かけ」「話し相手」「災害時の手助け」「買い物の手伝い」「見守り」「通院などの外出の手伝い」。

②知的障がい者の保護者の会(12人)

生活する上での悩みや不安は「自分や家族の老後」「災害時のこと」「健康」。地域の人に手助けしてほしいことは、「災害時の手助け」「声かけ」「通院などの外出の手伝い」「話し相手」「短時間の子どもの預かり」。

(4)ボランティアの声(16人)

新規の参加者が少なく、特に、若い人の参加が少ない。時間がある年の多い人がやるというイメージを無くしたい。これまで以上に情報の提供が必要。身近な所で気軽にできるボランティア活動を広めたい。

※なお、詳細につきましては地域福祉活動計画本冊子をご覧ください。